

かめのり中高生アンバサダープログラム 2018 報告

【目標】

「かめのり中高生アンバサダープログラム 2018(KTAP2018)」目標は以下の三つである。

- ①様々な場で、自身のコミュニケーション能力を実感する
- ②フィリピンの文化、社会などを知り、文化の異同を理解する
- ③人との協働においてどのような能力が必要なのかを、体験を通して知る

【日程】

- 1月20日(土) 羽田空港で出発前オリエンテーション実施後出発、夜マニラ空港着
- 1月21日(日) 市内観光(イントラムロス、リサール公園、バス車窓よりマニラ市内)
- 1月22日(月) デラサール高校、大学訪問
- 1月23日(火) JICA、Unang Hakbang Foundation 訪問、ケソン市に移動
- 1月24日(水)
～26日(金) にほんご人フォーラム in フィリピン(国際交流基金マニラ文化センター主催)
- 1月27日(土) フィリピン音楽・舞踊・文字体験 Workshop、夕食会
- 1月28日(日) 朝マニラ出発、午後帰国

【報告】

1月21日 市内観光

午前中はイントラムロス内を歩いてまわった。日曜日で付近の大学街が静かであったためゆっくりと観光することができた。教会には多くのフィリピン人が多く日曜のミサに集まっており、キリスト教がフィリピンの中に根付いていることが感じられた。マニラ大聖堂、サンオーガスチン教会などをまわったが、キリスト教に直に触れた経験があまりなかった参加生には学ぶことが多いようだった。午後はリサール公園に行き、習ったフィリピン語で現地の人に声をかけて写真を撮ってもらうなどのタスクをグループに分かれて行った。フィリピンの人の温かさ、優しさに触れて、楽しくタスクを行うことができた。



その後、バスの車窓から観光。巨大モール、豪華なコンベンションセンター、アジアナシティーの5つ・6つ星のホテルなどを見て、これから発展していくフィリピンを実感したが、ホテルに戻るとき信号待ちのバスの窓をたたいて花を売りに来る子供達に遭遇し、貧しさの一端を目の当たりにした。

1月22日 デラサール大学・高校訪問

デラサールは富裕層が通う私立学校で、午前中に訪れたラグーナキャンパスには附属小学校、中学、高校があり、高1～3の日本語クラスの生徒達との交流が行われた。高2、高3生は昨年日本を訪問しており、その研修旅行についてのプレゼンテーションやフィリピン紹介をしてくれた。日

本の参加生達は用意してきた日本文化紹介を行い、その後軽食をとりながら、自由で活発な交流の時間をもった。デラサール生の明るくポジティブな発言に、自分にもっと自信を持とうと思ったと夜の振り返り時に述べていた参加生もいた。



午後はマニラキャンパスに戻り、大学の国際交流委員会の学生がキャンパスツアー後、アイスブレイク、フィリピンスラング紹介、ゲームなどを通して楽しい時間を提供してくれた。夕方、副学長の Dr. Chua Garcia が見えて、KTAP を歓迎してくれ、

デラサール大学について、フィリピンについて、これからの社会での生き方などについて 20 分ほどのスピーチをくださった。英語は半分ぐらいしか理解できなかったという参加生もいたが、スピーチの力強さから言葉以上のものが伝わったようだった。

1月23日 JICA・UHF 訪問

JICAでは担当の職員の方が国際援助やJICA事業について分かりやすく説明をしてくださった。現場で最も気をつけていることは現地の文化を尊重すること、現場の要望を基に計画を立てること、現地の人たちが続けられる事業を展開すること、など重要なポイントを学んだ。また、他の国の取り組みや、支援を受けている国が支援をする側になることはあるのかななどの質問にも丁寧に答えていただき、非常に有意義な1時間半であった。



UHF は経済的に恵まれない子供たちが放課後などに過ごす場所で、訪問時には2歳から12歳くらいまで30人ほどの子供たちが集まってきた。参加生達は用意してきた折り紙、縄跳び、けん玉などを子供達に教えたり、じゃんけん列車やおんぶなど体を使って全力で遊んでいた。後半の時間は、黒板を利用して、日本語で挨拶や数字をおしえたり、チューリップの歌を一緒に歌ったりなどして、子供たちを楽しませていた。

1月24日～26日 にほんご人フォーラム(国際交流基金マニラ文化センター主催)

日本語を学んでいるフィリピンの高校生36人と日本人中高生12人で活動するにほんご人フォーラムのテーマは「ごみ」で、事前課題でも自分の周りのごみ問題をしっかりと調べてきた上でフォーラムが始まった。フィリピン人3人、日本人1人というグループ構成、使用言語は「英語が多くなる」と覚悟してきたものの、生徒達はコミュニケーションにかなり苦労していた。何をしたらよいか分からないと戸惑っていたが、1日目夜のファッションショー、2日目のフィールドワー



クなどを通して自分から積極的に働きかけることの重要さに気づき、次第に皆の表情が明るくなっていった。ジングル(簡単な歌と踊りでメッセージを伝える手法)での成果発表に向けてグループごとに一生懸命練習に励み、コミュニケーションに一番苦勞していた参加生のグループが結果的に賞をもらうなど努力が報われた場面もあり、それぞれが壁を乗り越えた3日間であった。

1月27日 フィリピン音楽・舞踊・文字体験 Workshop、夕食会



音楽、舞踊、古代文字というフィリピンの伝統的文化に触れる体験をした。前日までの課題プログラムとは違い、参加生達は純粋に文化体験を楽しんでいた。

最終日夜の夕食会には国際交流基金マニラ文化センターの職員、講師の方々も参加して下さった。参加生達は3つのグループに分かれて、8日間のプログラムを振り返るスキットやジングルを発表したが、その発表力に彼らの成長を感じた。また、1人ずつ行った2分スピーチでは、どの

参加生からも「期間は短かったが深い体験をした」という言葉が聞かれ、1順では終わらず、もっと話したい、伝えたい、とマイクを奪い合いながら体験を振り返っていた。



1月28日 帰国

たくさんの思い出と共に無事に帰国。1月初めの事前オリエンテーションの初顔合わせのときはよそよそしかった12人だったが、多くのチャレンジを共に乗り越え、お互いを尊重し合うよい関係を築くことができた。貴重な体験の種が日本全国に散り、いつか花開くことを期待している。